令和8年10月16日（金）
17日（土）

（仮称）調布市防災・スポーツレクリエーション公園
整備事業説明会

調布市・ＦＣ東京

【本日の内容】

■開会の挨拶
■事業概要の説明
　１　調布市とＦＣ東京のパートナーシップ
　２　検討経緯・スケジュール
　３　施設整備の概要
　　（1）　特色・配置
　　（2）　防災力の向上
　　（3）　ゼロカーボンシティの実現に向けた取組
　４　市民・地元からの要望への対応
■質疑応答
■閉会

１　調布市とＦＣ東京のパートナーシップ

１　調布市とＦＣ東京のパートナーシップ

■ＦＣ東京創設以来の調布市との関係

・調布市は、「ＦＣ東京等様々な主体と連携したスポーツ振興等の推進」を掲げ、**平成１１年から**ＦＣ東京を応援しています。

・ＦＣ東京はスポーツ振興のみならず、青少年の健全育成、福祉、教育、市民の健康づくり、平和、地域振興等の様々な面で調布市と連携したまちづくりを推進しています。

・ＦＣ東京のホームタウンということをシティプロモーションに活かし、市としてのイメージや知名度を高めることや、市民がＦＣ東京のあるまち・調布に誇りや愛着を持つことにもつながることにも寄与しています。

・令和７年８月には、これまでの取組を通して築いてきた両者の強固なパートナーシップを更に発展させ、様々な分野におけるまちづくりの多面的な効果の創出につなげることを目的として**「調布市と東京フットボールクラブ株式会社との包括連携に関する協定」**を締結しました。

・この他、ＦＣ東京は、地域社会の発展と都民サービスの更なる向上を図るため、東京都と「ワイドコラボ協定」を令和５年３月に締結しています。

1　調布市とＦＣ東京のパートナーシップ

令和７年度は５４の連携協力事業に取り組みました

■連携協力事業の一例

○子どもサッカー体験教室





○調布市障害者余暇活動支援事業（ほりで～ぷらん）





1　調布市とＦＣ東京のパートナーシップ

■連携協力事業の一例

○ちょうふピースメッセンジャージュニア





○調布市環境フェア同日開催イベント ～ＦＣ東京 石川 直宏氏 トークショー～





1　調布市とＦＣ東京のパートナーシップ

■連携協力事業の一例

○飛田給駅前クリーン作戦



■令和８年度の取組事例
ＦＣ東京×調布市コラボ給食





２　検討経緯・スケジュール

2　検討経緯・スケジュール

【留保地の概要】

■位置
調布市西町
（味の素スタジアムの東側、調布飛行場の南側）

■面積
約６ヘクタール（６万平方メートル）

■所有者
国（財務省関東財務局立川出張所）

■市における活用
国から１/３取得、２/３無償借受



■土地（調布基地跡地留保地）の沿革
・調布基地跡地留保地は、昭和４９年１２月に米軍から返還された関東村住宅地区国有地の一部で、国において、「当分の間、処分を保留する」とされた土地です。

・国は、平成１５年６月、その考え方を「原則利用、計画的有効活用」に方針転換するとともに、調布市に対して、平成２０年度までに利用計画の策定を要請しました。

２　検討経緯・スケジュール

■調布市の検討経過など

・国からの要請を受け、平成１６年度以降、留保地の活用に関する調査や検討を重ね、平成２０年３月に**「調布基地跡地留保地利用計画」**を策定しました。

・利用計画の策定も含め、市の基本計画へ位置付けながら取組の検討を進めてきましたが、他の都市基盤整備や国際的なスポーツ大会、コロナ禍など、様々な重要課題に優先的に対応する必要があり、本計画の実現までには至りませんでした。

・令和７年６月に、ＦＣ東京から、市と連携して留保地を活用した施設整備に関する提案を受けました。

・**令和７年１２月**に、利用計画の枠組みを基本としながら、ＦＣ東京からの提案を踏まえた**「調布基地跡地留保地施設整備基本計画」**を策定し、これを基に設計予算を承認いただき、現在、整備に向けて設計中。

●市の利用計画がありながら、その実現（実行）に至らない
●一般の利用に開放されず（閉鎖管理のまま）

●計画の実現（実行）により、**防災・スポーツレクリエーション機能**を確保
●多様な機能を有する都市公園としての利用を実現
●**ＦＣ東京との連携**により、まちづくりへの多面的な効果を創出

２　検討経緯・スケジュール

■令和８年第三回調布市議会定例会にて可決された関連議案について

①調布市防災・スポーツレクリエーション推進地区内における建築物の制限の緩和等に関する条例

・適用区域内において運動施設等が立地できるよう、建築物の建築の制限の緩和

②調布市都市公園条例の一部を改正する条例

・都市公園法施行令の規定に基づき、「１００分の５０」の基準を参酌したうえで、地域の実情に応じ、市が条例で規定

・留保地に整備する都市公園で運動施設が占める面積の想定を踏まえ、当該公園に限り、運動施設割合の上限を「１００分の７０」に緩和

③財産の取得（国有地の取得）

・取得予定価格　　約２７億７５５０万円（１/３部分　約２万㎡）
※残る２/３部分　約４万㎡は国から無償借受

④（仮称）調布市防災・スポーツレクリエーション公園計画地整地工事請負契約

・工事内容　整地工事(土のすき取り・敷ならし、樹木移植、伐採・伐根、公園遊具撤去)

・工事金額　５億１６７８万円（税込み）

2　検討経緯・スケジュール

■事業手法・費用負担の考え方

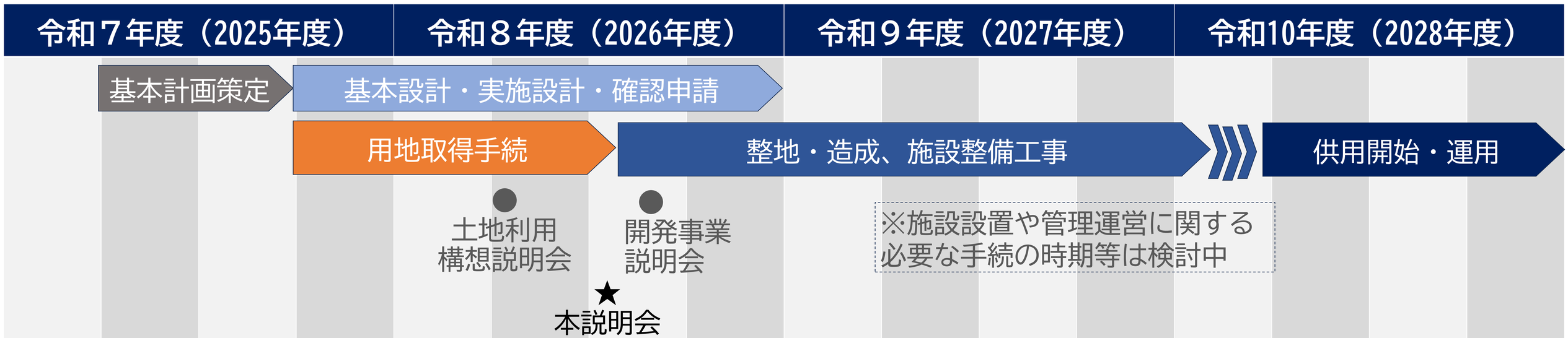
【事業手法】

- 市が主体となり、効率的な土地利用や財政負担の抑制の観点から、**民間活力を効果的に活用**
- ＦＣ東京が有するスポーツ振興や施設運営等の専門性を活かし、ＦＣ東京と連携して整備・運営
- 施設整備は市とＦＣ東京とで**役割分担しながら対応**
- 施設の管理・運営は、市が基本的な関与を維持する観点も踏まえ、指定管理者制度を基本に検討

【費用負担】

- 公園整備として市が土地を取得（国から１／３購入・２／３無償借受）
- ＦＣ東京が練習拠点となる施設を整備し、練習施設以外の施設整備は市が主体となって整備
- 各種補助金の最大限の活用、クラウドファンディングなどを通じた寄附等も含めた財源確保策の検討

■事業スケジュール概要※現時点の予定



３　施設整備の概要

（1）　特色・配置

3　施設整備の概要（1）特色・配置

■土地利用計画図

※防災・スポーツレクリエーション機能を有する公園としての枠組みを基本として、防災等の必要な機能や西町公園との一体的運用を盛り込み策定

留保地利用計画（平成20年3月）



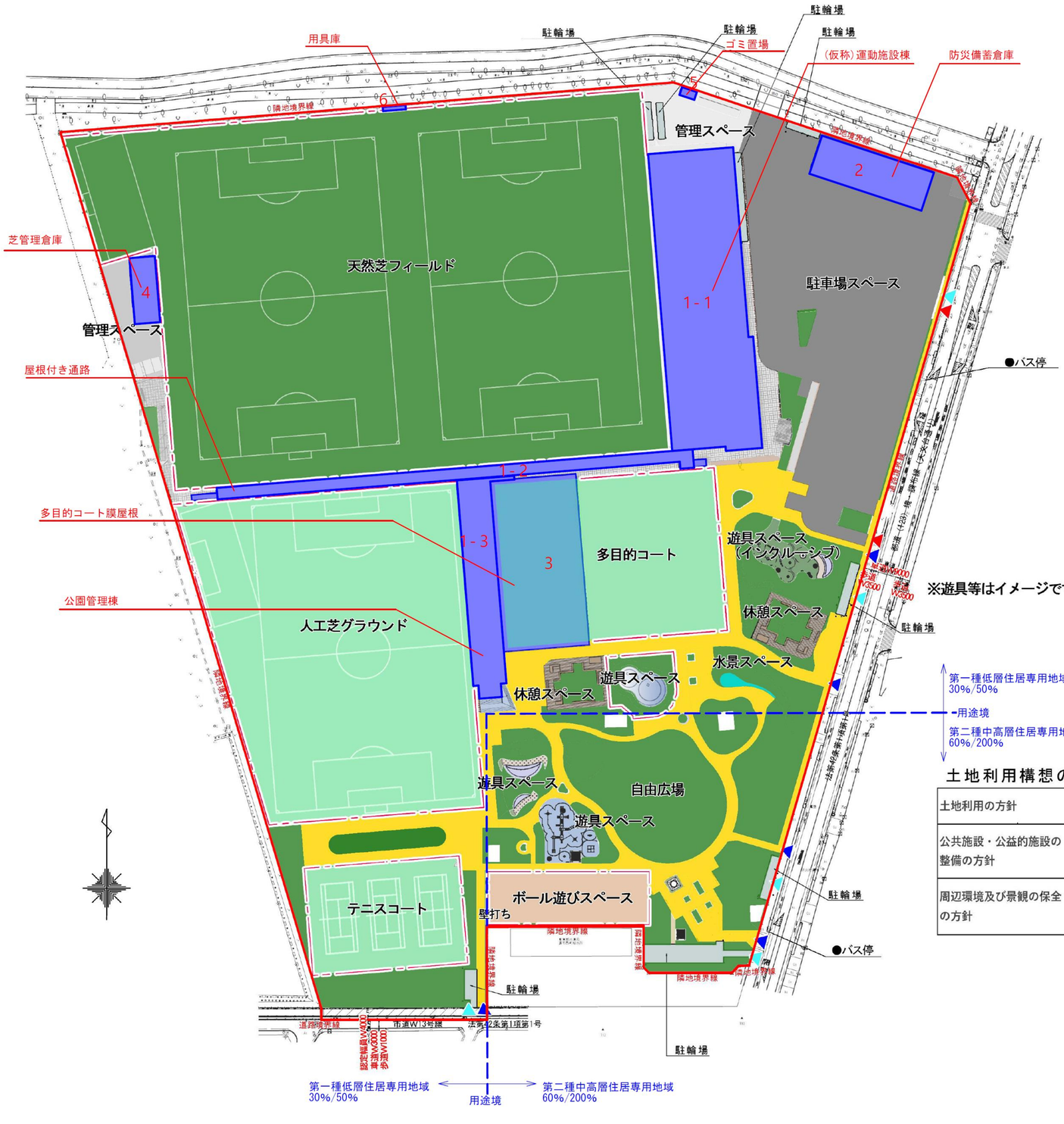
施設整備基本計画（令和7年12月）



3　施設整備の概要（1）特色・配置

■土地利用構想図（令和８年７月）

※施設整備基本計画を基に基本設計を進める中で、
それまでにいただいた意見を踏まえ作成



※遊具等はイメージです

凡例

	名称	備考
	開発事業区域	
	予定建築物	
	駐車場	市民利用、FC東京利用、共用
	駐輪場	
	緑地	芝生含む
	歩道状空地	
	フェンス（防球含む）	
▲	車両出入口	
▲	歩行者出入口	
▲	駐輪場出入口	

建築物一覧表

番号		棟名	建築面積	延床面積	階数	高さ
1		(仮称)運動施設棟・屋根付き通路・公園管理棟				
	1-1	(仮称)運動施設棟	約3,000㎡	約5,150㎡	2	約9.350m
	1-2	屋根付通路	約600㎡	約70㎡	1	約4.700m
	1-3	公園管理棟	約750㎡	約700㎡	1	約4.700m
		合計	約4,350㎡	約5,920㎡		
2		防災備蓄倉庫	約500㎡	約600㎡	1	約5.700m
3		多目的ｺｰﾄ膜屋根	約1,700㎡	約1,600㎡	1	約9.900m
4		芝管理倉庫	約200㎡	約170㎡	1	約5.000m
5		ゴミ置場	約20㎡	約20㎡	1	約2.300m
6		用具庫	約10㎡	約10㎡	1	約2.100m
合計			約6,780㎡	約8,320㎡		

土地利用構想の基本事項

土地利用の方針	調布のまちづくりに多面的な効果をもたらし、まちの付加価値の向上に資する防災・スポーツレクリエーション機能を有する公園を整備する。
公共施設・公益的施設の整備の方針	平常時の利用に向けては、スポーツ施設や広場等を整備するほか、災害時においては、一時避難場所や物資集積エリア等として活用するとともに、防災備蓄倉庫を設置する。
周辺環境及び景観の保全の方針	道路境界から15mの範囲には建築物を設けず、周辺環境への影響を抑える。また、既存樹木を可能な限り残す計画とする。

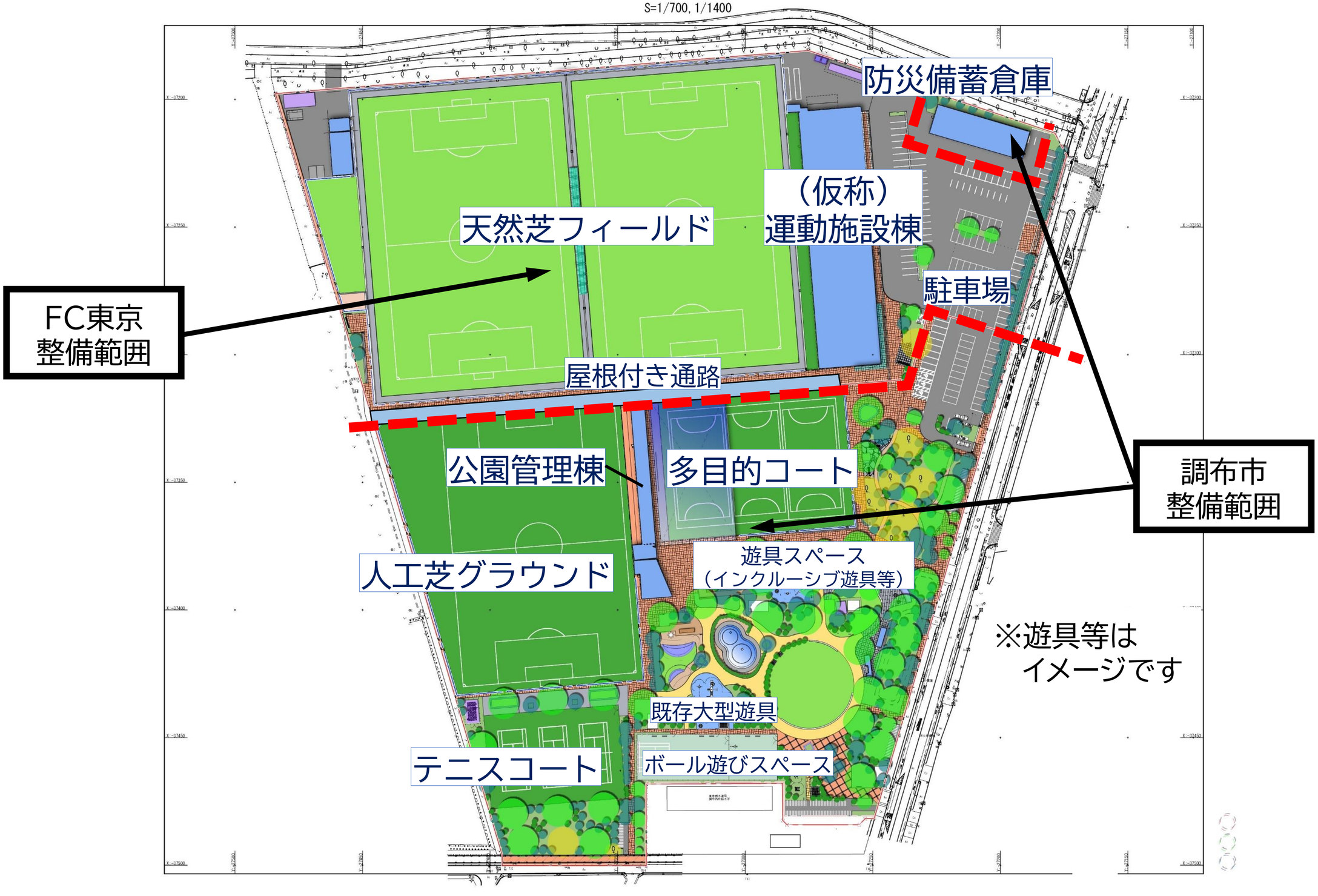
本図面は計画段階であり、今後変更の可能性があります。

土地利用構想図_260622
S=1:1400（A3）

3　施設整備の概要（1）特色・配置

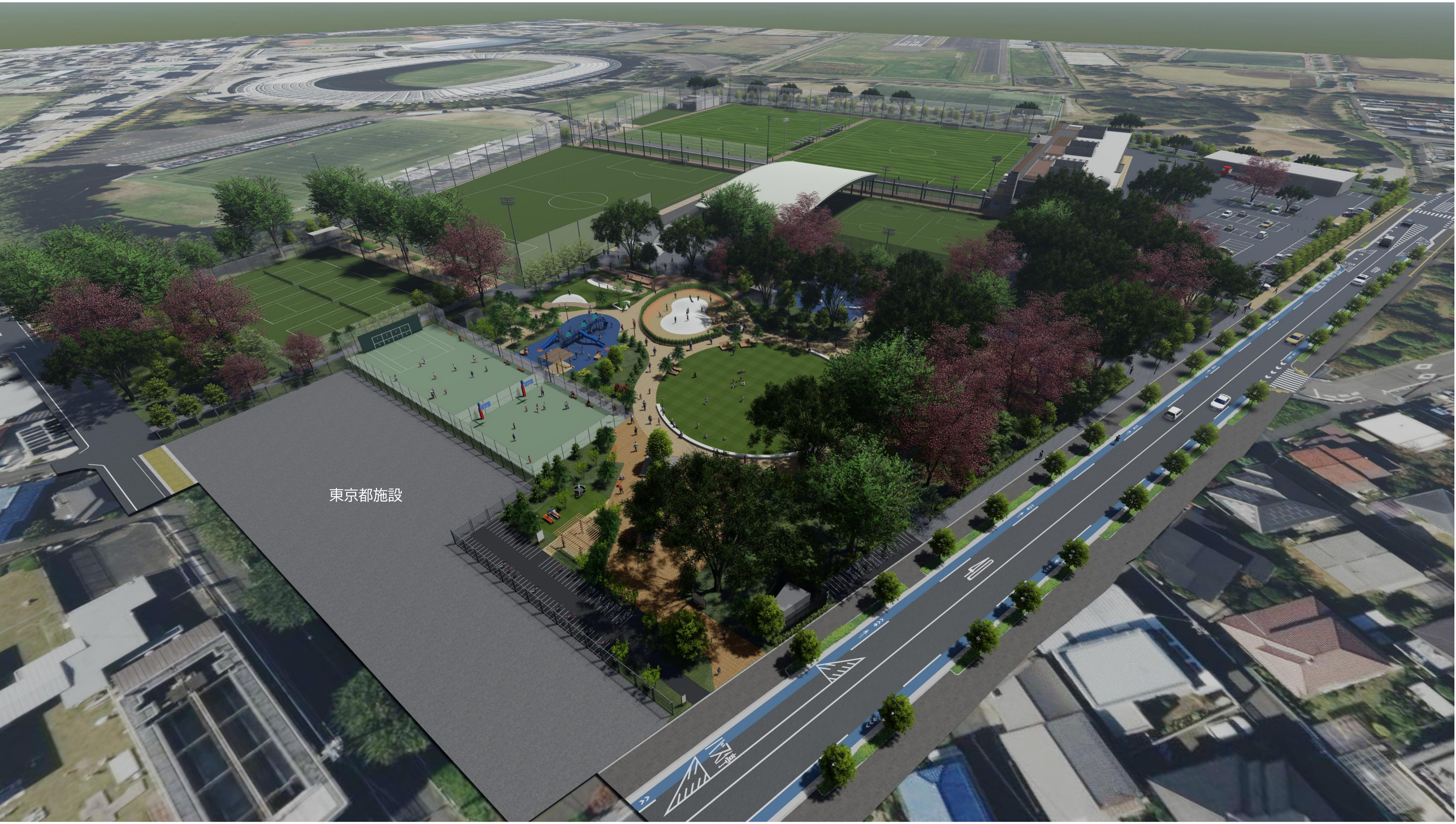
■土地利用計画図（令和８年１０月）

計画平面図
S=1/700, 1/1400



3　施設整備の概要（1）特色・配置

■完成イメージ図



※設備や仕様等については現在調整中

３　施設整備の概要

（2）　防災力の向上

3　施設整備の概要（2）防災力の向上

■所在地・概要



地域防災計画

日常的に利用するグラウンドや広場、建物、駐車場などの特性に応じて、災害時には、物資の荷分け・搬送、ボランティア活動の拠点、帰宅困難者対応、備蓄等を行う場所としての活用を念頭に整備

整備基本計画での位置付け（抜粋）

災害時に、帰宅困難者への対応のほか、支援物資の備蓄・仕分けを行う倉庫を整備することで、物資の輸送拠点としての活用を見込む

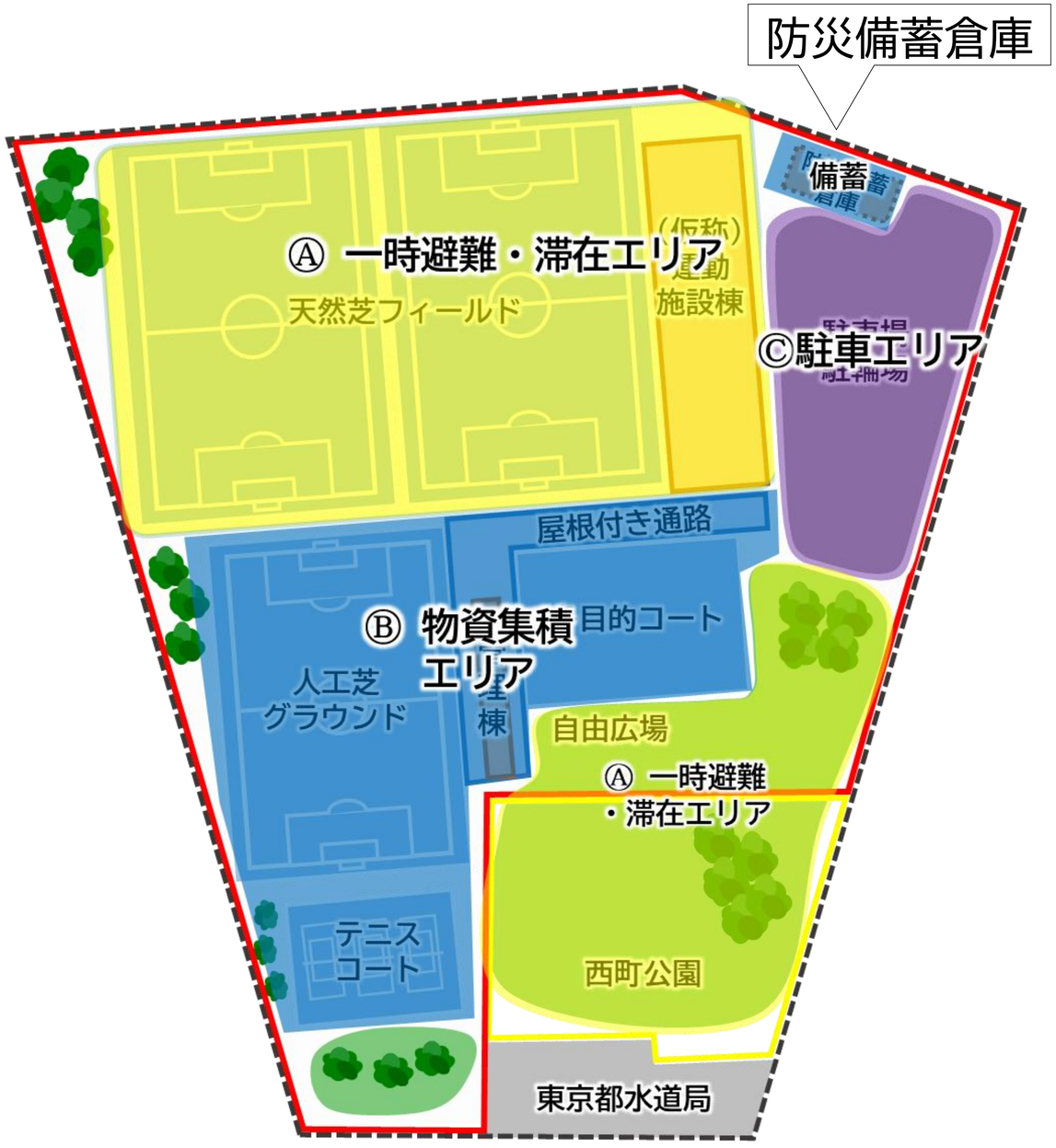
留保地内に整備する各施設の配置や日常時の搬出入動線については、災害時において適切に機能を発揮できるよう、効果的な位置に配置

周辺環境

【交通環境】甲州街道・中央自動車道に近接。敷地東側の天文台通り（都道）は特定緊急輸送道路に指定予定（現在は一般緊急輸送道路）
【調布飛行場】東京都は防災活動の拠点として位置付け

3　施設整備の概要（2）防災力の向上

■災害対応に関する機能配置について



施設整備基本計画（令和7年12月）

敷地全体の防災での活用

Ⓐ一時避難・滞在エリア

災害時における近隣住民等の一時的な避難場所や帰宅困難者の一時的な滞在場所として活用

Ⓑ物資集積エリア

災害時における「市内各避難所等への物資輸送拠点」や「応援物資等の保管等ができる大規模な備蓄場所」として活用

Ⓒ駐車エリア

大規模災害時における物資輸送車両や関係車両の駐車・待機場所等として活用

水害発生時（水害の発生が予測される場合も含む）における、浸水想定区域内の車両等の避難場所としての活用を検討

防災備蓄倉庫

避難所の備品を補完する物品を収納し、災害時に各避難所へ搬出した後は、国や東京都からのプッシュ型で配送される物資の輸送拠点として活用

首都直下地震緊急対策推進基本計画の変更の概要

資料８【公表】　令和８年６月12日閣議決定

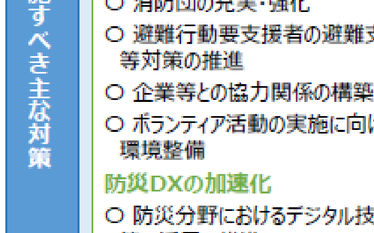
○ **首都直下地震緊急対策推進基本計画**（以下、「基本計画」。）は、首都直下地震対策特別措置法に基づき、**首都直下地震に係る地震防災上緊急に講ずべき対策の推進に関する方針・施策等を定める計画。**

○ 平成27年３月の基本計画の策定から約10年が経過することから、中央防災会議の**首都直下地震対策検討ワーキンググループ**において、**被害想定の見直し、新たな防災対策の検討**を実施。同ワーキンググループ報告書（令和７年12月19日公表。以下、「WG報告書」。）を踏まえ、基本計画を変更。（令和８年６月12日閣議決定）

基本計画変更の前提となる新たな被害想定（都心南部直下地震の場合）

新たな被害想定

想定震度分布
（都心南部直下地震（M7.3））



○ 東京圏は、**人口・建物数が極めて膨大。**
〔人口：約3,690万人、建物棟数：約965万棟〕
○ 死者数と全壊・焼失棟数の**約７割は、火災によるもの。**

	全体	揺れ等による被害	火災による被害
【人的被害】死者	約1.8万人	約0.6万人	約1.2万人
【建物被害】全壊・焼失	約40万棟	約13万棟	約27万棟

避難者：約480万人、避難所の食料不足（7日間）：約1,300万食
帰宅困難者：約840万人　　※災害関連死者：約1.6万～4.1万人

被害の特徴

首都中枢機関への影響
＋
巨大過密都市を襲う被害

首都直下地震について

○ **首都直下地震**は**東京圏及びその周辺地域で発生する大規模な地震。**
○ **Ｍ７クラスの地震**は**いつどこで発生してもおかしくなく**、地震の発生が切迫していると考えて**防災対策を行う必要がある。**
○**被害想定の対象とする地震**は、発生可能性や首都中枢機能への影響を考慮し、**被害が甚大となる「都心南部直下地震」を選定。**

<WG報告書より>

基本計画変更のポイント

新たな目標

機能目標（※）　※首都中枢機能、ライフライン、インフラが発災直後においても最低限果たすべき目標

○**首都中枢機関**（政治中枢・行政中枢・経済中枢）が実施すべき**非常時優先業務の継続に係る目標を充実**
○**ライフライン・インフラの復旧等に係る目標を充実**
追加目標例：首都中枢機関の重要設備を有する建物の非常用発電設備への燃料供給を絶やさない。

新たな今後10年の減災目標

想定される死者数　約１万８千人 から　半減以上
想定される建築物の全壊・焼失棟数　約40万棟　から　半減以上

上記に加え、災害関連死や経済的被害を最大限減らすことを目指す。

具体目標

○「首都直下地震緊急対策区域」を対象とした具体目標を充実
⇒ 具体目標の数：４７個 ➡ １８９個に拡充
○国土強靭化実施中期計画等を踏まえた具体目標を設定
（このほか、WG報告書等を踏まえた具体目標※を設定）
※災害に備えた食料品を３日分以上備蓄している家庭の割合、感震ブレーカーの設置率　等

基本的方針

緊急に実施すべき主な対策

防災意識の醸成と社会全体での体制構築

各個人の防災対策の啓発活動
○ 国民の防災意識の向上
企業活動等の維持・早期回復のための備え
○ 事業継続の取組の推進
総合的な防災力の向上に資する多様な連携
○ 消防団の充実・強化
○ 避難行動要支援者の避難支援等対策の推進
○ 企業等との協力関係の構築
○ ボランティア活動の実施に向けた環境整備
防災DXの加速化
○ 防災分野におけるデジタル技術等の活用の推進
等

首都中枢機能の維持

首都中枢機能の維持
○[行政]執行体制及び執務環境の確保
※東京圏において首都中枢機能の維持が困難な事態も想定し、代替拠点を検討。詳細は政府業務継続計画において定める。
○[金融]金融決済機能の継続性の確保
○[企業]企業の本社系機能の確保
※企業等のBCPにおける代替拠点の検討促進。
ライフライン・情報通信インフラ維持
○ 発電・送電システムの耐震化等
○ 燃料の供給体制の確保
○ 通信機能の確保
緊急輸送に係る機能維持
○ 鉄道の機能維持に向けた対策
○ 効果的な道路啓開に係る関係機関の連携の強化等
等

膨大な人的・物的被害への対応強化

予防による被害軽減

建築物・施設の耐震化等
○ 住宅等の耐震化
火災対策
○ 電気に起因する出火の防止
○ 密集市街地の整備
ライフライン・インフラの強靭化等
○ 上下水道施設の耐震化等
○ 道路の機能維持・強化に向けた対策
○ 港湾・空港の機能維持に向けた対策
新たなライフスタイル定着による被害軽減
○ 二地域居住・テレワークの推進
等

災害対応力の強化

防災関係機関相互の連携による災害応急体制の整備
○ 緊急消防援助隊等の充実
○ TEC-FORCE活動の強化
○ 首都直下地震における応急対策職員派遣制度アクションプランの策定等
○ 地方公共団体の受援体制の確保
的確な情報収集・発信
○ 適時的確な情報の発信
○ 外国人等への情報発信の実施
災害時の医療・保健・福祉機能
○ DMATやDPAT等の充実
物資調達・輸送
○ 備蓄の充実、物資情報管理の整備
避難生活環境の向上
○ 避難生活環境の整備等
等

災害対応ニーズの抑制と役割の分担

在宅避難の促進
○ 在宅避難の必要性の普及啓発
○ マンション防災
広域的避難への対応
○ 広域的避難の推進
膨大な数の帰宅困難者等への対応
○ 一斉帰宅抑制の普及啓発
○ 一時滞在施設の確保
○ 徒歩帰宅への支援
等

迅速な復興・より良い復興への備え

災害廃棄物処理対策
○ 一般廃棄物・災害廃棄物対策
地籍調査の加速化
○ 地籍調査の推進
事前復興計画等の推進
○ 事前復興に向けた取組の充実
等

その他

○　国は、各分野の専門家の意見を聞きながら、減災目標を達成するために必要な施策の**具体目標又は定性的な目標の進捗の把握や課題の共有等のフォローアップを毎年実施。**

3　施設整備の概要（2）防災力の向上

膨大な人的･物的被害への対応強化

予防による被害軽減

建築物･施設の耐震化等
- ○ 住宅等の耐震化

火災対策
- ○ 電気に起因する出火の防止
- ○ 密集市街地の整備

ライフライン･インフラの強靭化等
- ○ 上下水道施設の耐震化等
- ○ 道路の機能維持･強化に向けた対策
- ○ 港湾･空港の機能維持に向けた対策

新たなライフスタイル定着による被害軽減
- ○ 二地域居住･テレワークの推進

等

災害対応力の強化

防災関係機関相互の連携による災害応急体制の整備
- ○ 緊急消防援助隊等の充実
- ○ TEC-FORCE活動の強化
- ○ 首都直下地震における応急対策職員派遣制度アクションプランの策定等
- ○ 地方公共団体の受援体制の確保

的確な情報収集･発信
- ○ 適時的確な情報の発信
- ○ 外国人等への情報発信の実施

災害時の医療･保健･福祉機能
- ○ DMATやDPAT等の充実

物資調達･輸送
- ○ 備蓄の充実、物資情報管理の整備

避難生活環境の向上
- ○ 避難生活環境の整備等

等

災害対応ニーズの抑制と役割の分担

在宅避難の促進
- ○ 在宅避難の必要性の普及啓発
- ○ マンション防災

広域的避難への対応
- ○ 広域的避難の推進

膨大な数の帰宅困難者等への対応
- ○ 一斉帰宅抑制の普及啓発
- ○ 一時滞在施設の確保
- ○ 徒歩帰宅への支援

等

「首都直下地震緊急対策推進基本計画の変更の概要」抜粋

3　施設整備の概要

(3) ゼロカーボンシティの実現に向けた取組

3　施設整備の概要
（3）ゼロカーボンシティの実現に向けた取組

■緑によるCO2吸収量の確保

樹木診断の結果やCO2吸収量など環境配慮の視点から、移植・残置・新たな植栽により、現状（都条例に基づく自然環境調査結果による大径木259本）と同等規模の緑を確保する予定

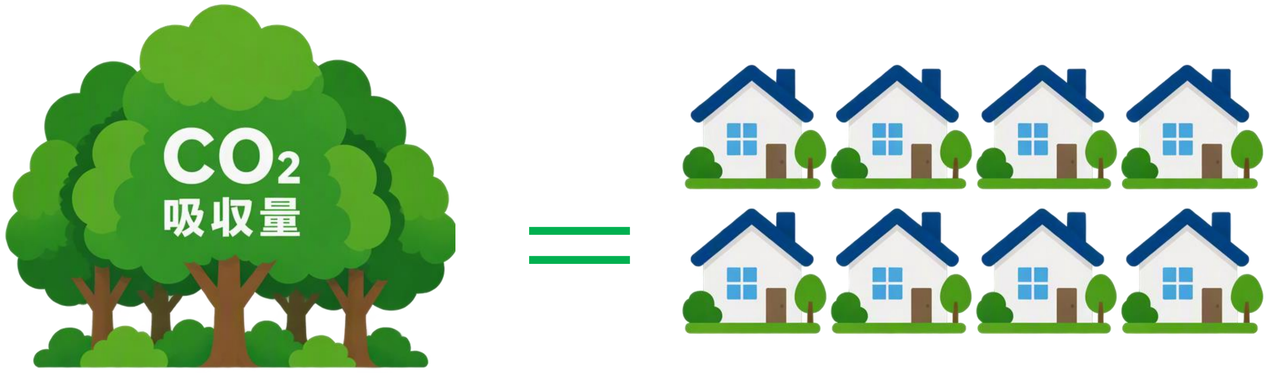
■現状の樹木のCO2吸収量の試算

林野庁が公表している「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法について（令和3年12月27日通知）」に基づき試算

＜試算結果＞

整備前のCO2 吸収量は、**年間 約17t-CO2**

＝ 一般家庭の平均的な年間CO2排出量（2.1t-CO2）に換算すると、**約8世帯分**



約17t-CO2／年　＝　約8世帯分／年

■CO2排出量削減に向けた更なる取組

整備後の留保地から排出されるCO2排出量実質ゼロをはじめ、面的な脱炭素化を進めるため、東京都の「ゼロエミッション地区創出プロジェクト」に選定　※10月1日選定・多摩地域初

留保地では**最大で年間約600t-CO2排出量の実質ゼロ**を目指します。

（ゼロエミッション地区では、**2030年度までにCO2排出量 年間約1万3000t-CO2の削減**が目標）

3　施設整備の概要
（3）ゼロカーボンシティの実現に向けた取組

■留保地におけるCO_2排出量実質ゼロに向けた主な取組

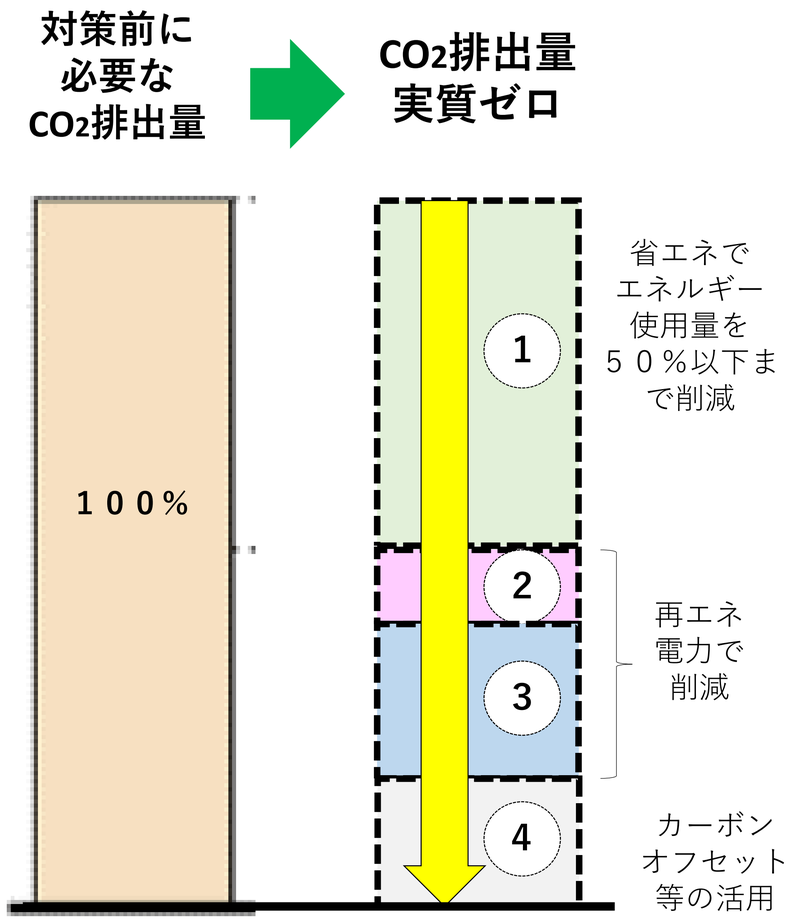
① 市とFC東京が連携し、省エネ性能が高い設備を導入した建物を整備

※（仮称）運動施設棟・公園管理棟の「**ZEB Ready認証**」取得を目指す

② **太陽光パネル・蓄電池**を設置し、CO_2排出量削減とともに**災害対応力を強化**（防災備蓄倉庫）

③ 市内外の建物等へ設置する太陽光発電の余剰電力を、**再エネ電力として活用**

④ その他カーボン・オフセット等の仕組みを活用





防災備蓄倉庫の太陽光パネル

４　市民・地元からの要望への対応

4　市民・地元からの要望への対応

■これまでにいただいたご意見を踏まえ検討している事項

①カフェ機能

②暑熱対策

③水遊び施設

④ふわふわドーム

⑤インクルーシブ遊具

⑥プレーパーク

⑦敷地南側（堀）の歩道空間整備

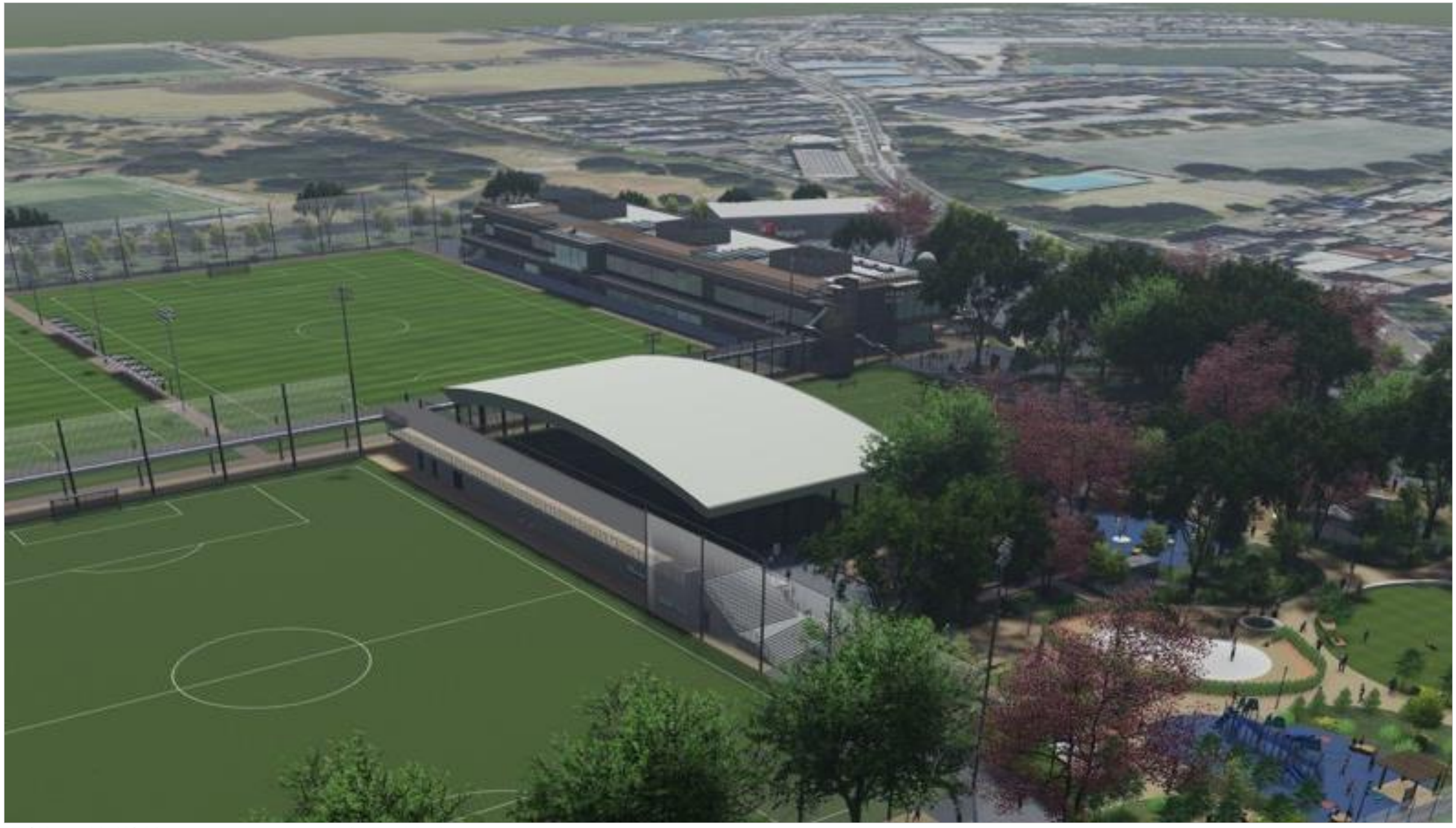
4　市民・地元からの要望への対応

①カフェ機能



※設備や仕様等については現在調整中

②暑熱対策



※設備や仕様等については現在調整中

4　市民・地元からの要望への対応

③水遊び施設



※設備や仕様等については現在調整中

④ふわふわドーム



※設備や仕様等については現在調整中

4　市民・地元からの要望への対応

⑤インクルーシブ遊具



※設備や仕様等については現在調整中

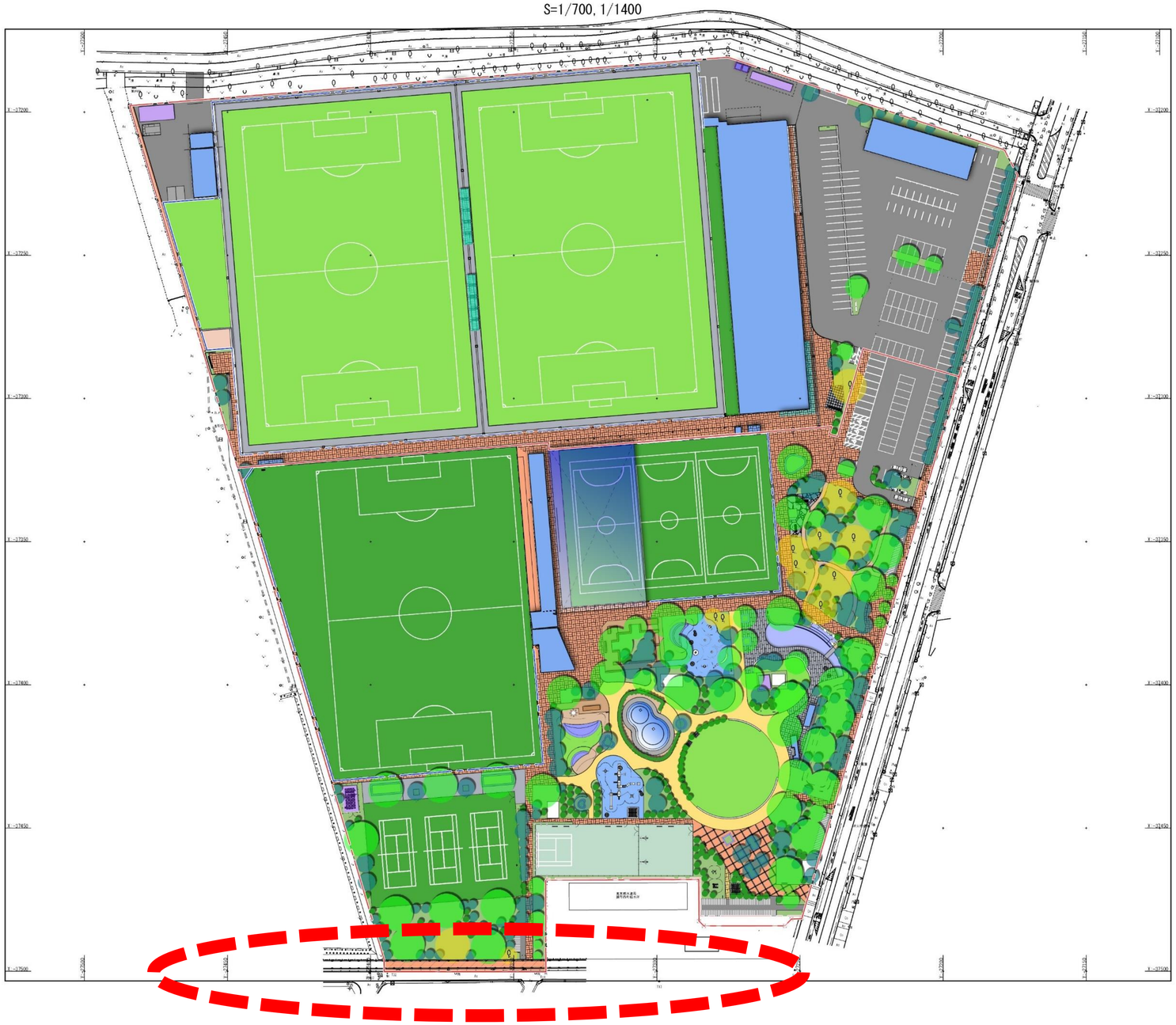
⑥プレーパーク



※設備や仕様等については現在調整中

⑦敷地南側（堀）の歩道空間整備

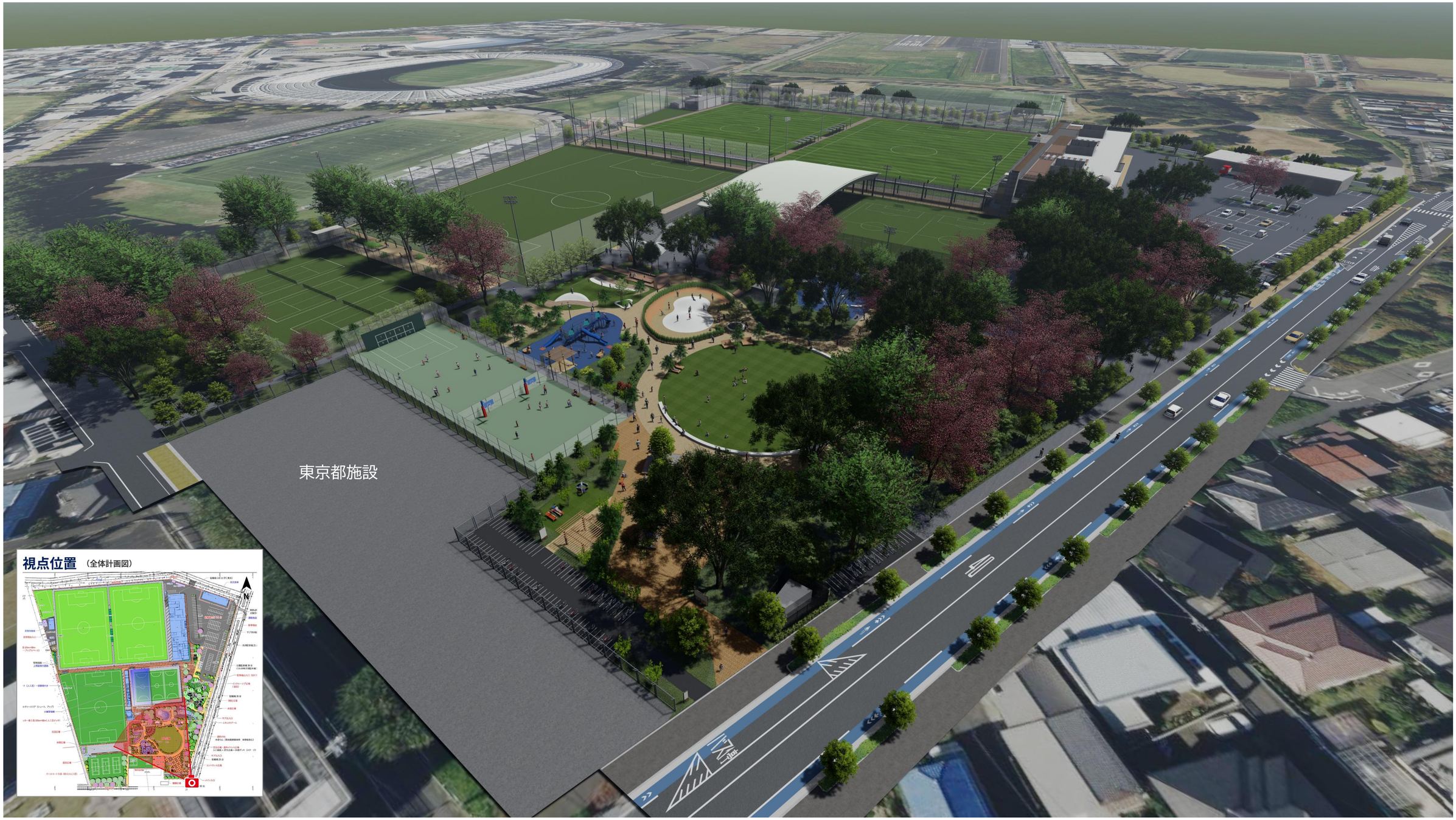
計画平面図
S=1/700, 1/1400



※設備や仕様等については現在調整中

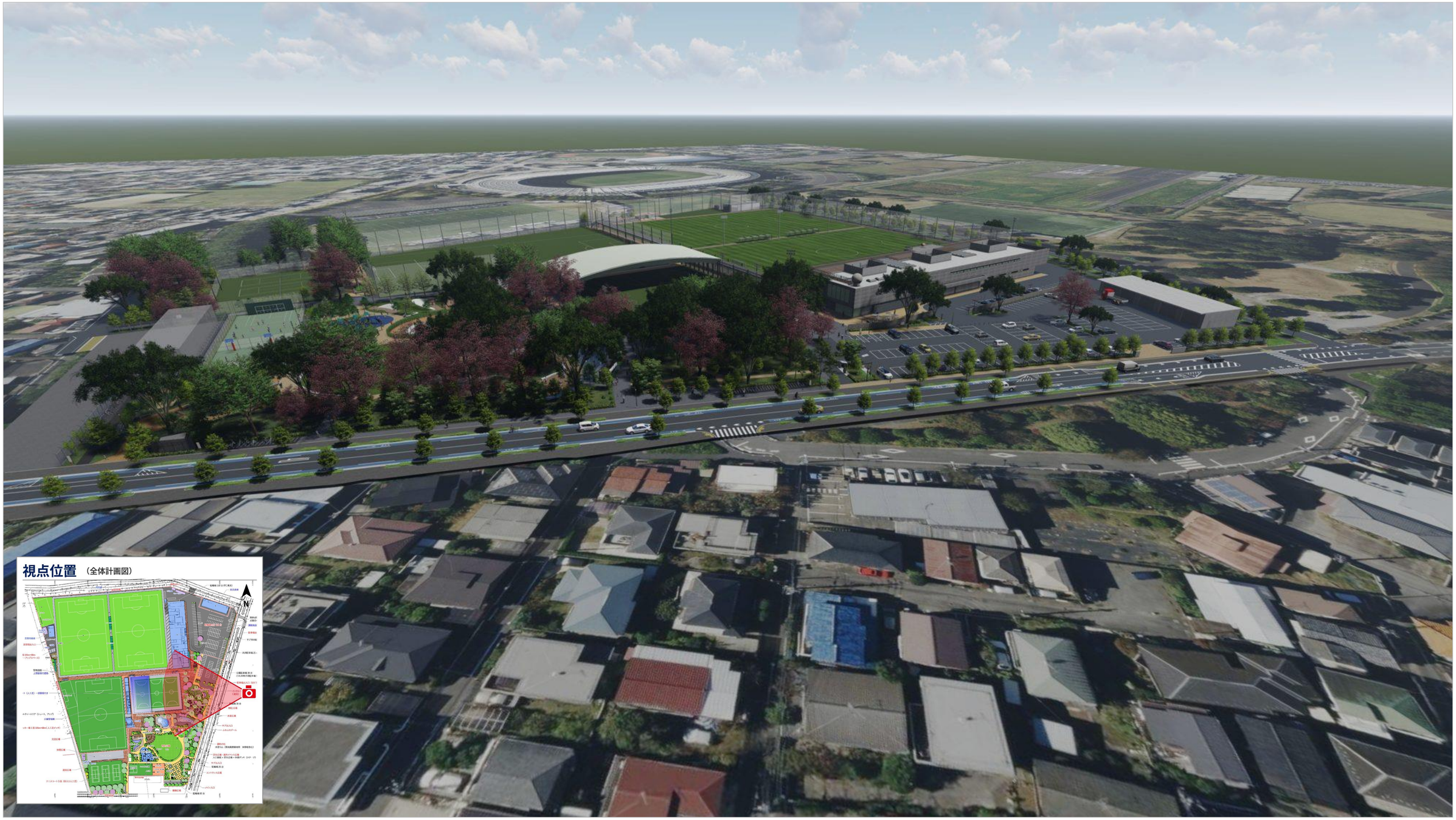
完成イメージ図

■完成イメージ図：全体鳥瞰



※設備や仕様等については現在調整中

■完成イメージ図：全体鳥瞰



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：全体鳥瞰



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：全体鳥瞰



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟・駐車場



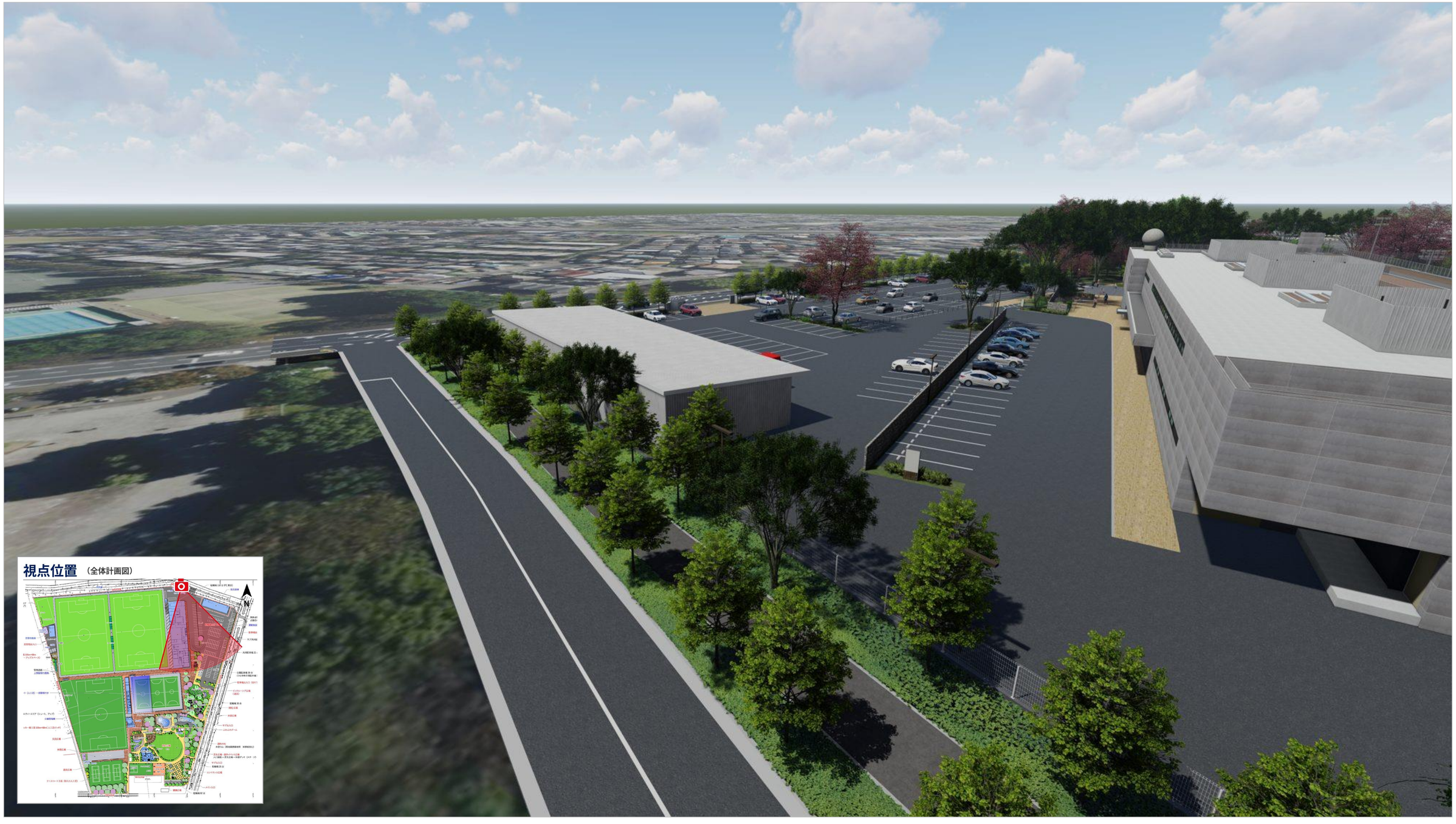
視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟・駐車場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟・駐車場



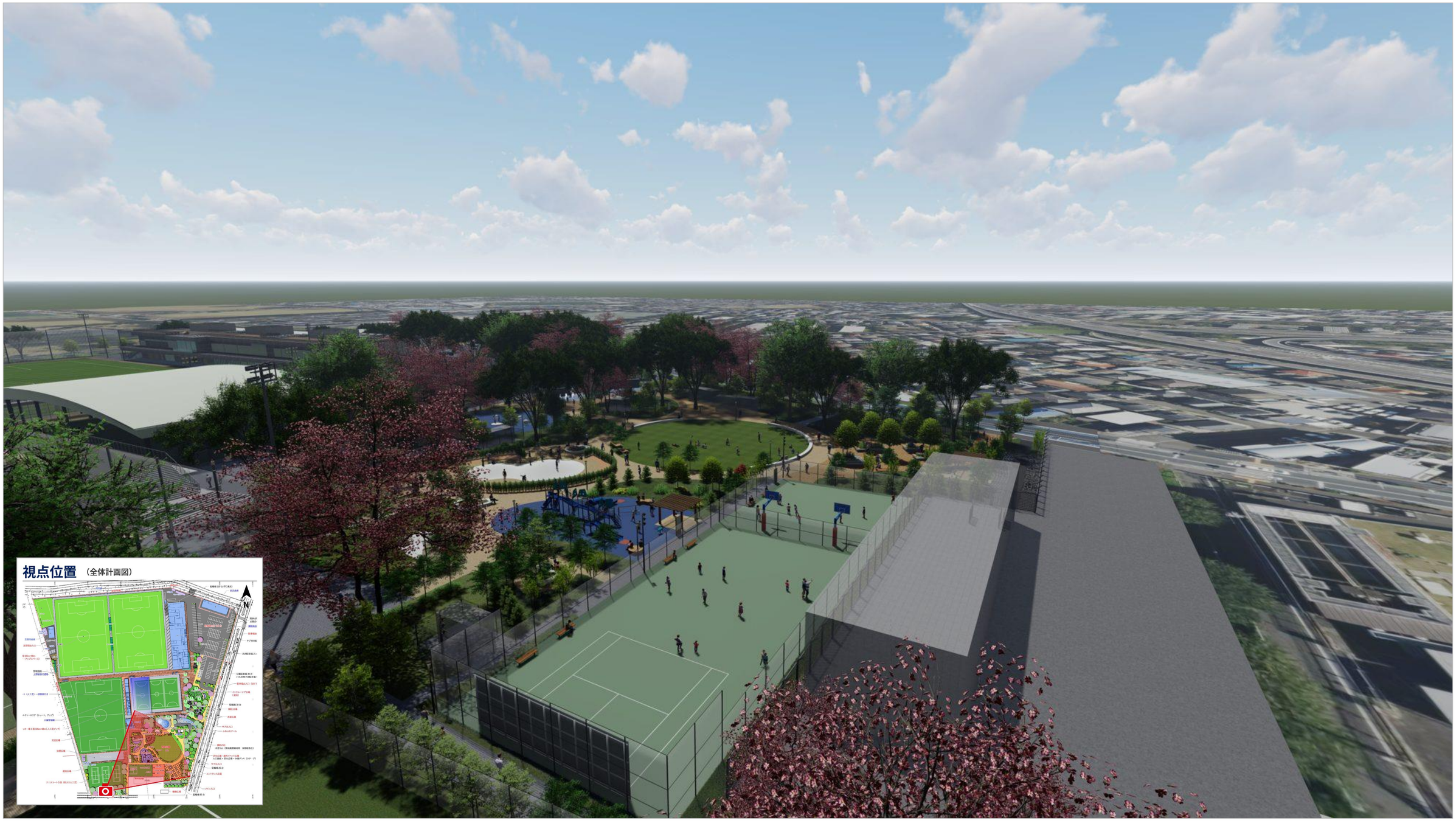
視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：エントランス・駐車場周辺



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園エリア



■完成イメージ図：公園エリア



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園エリア



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園エリア



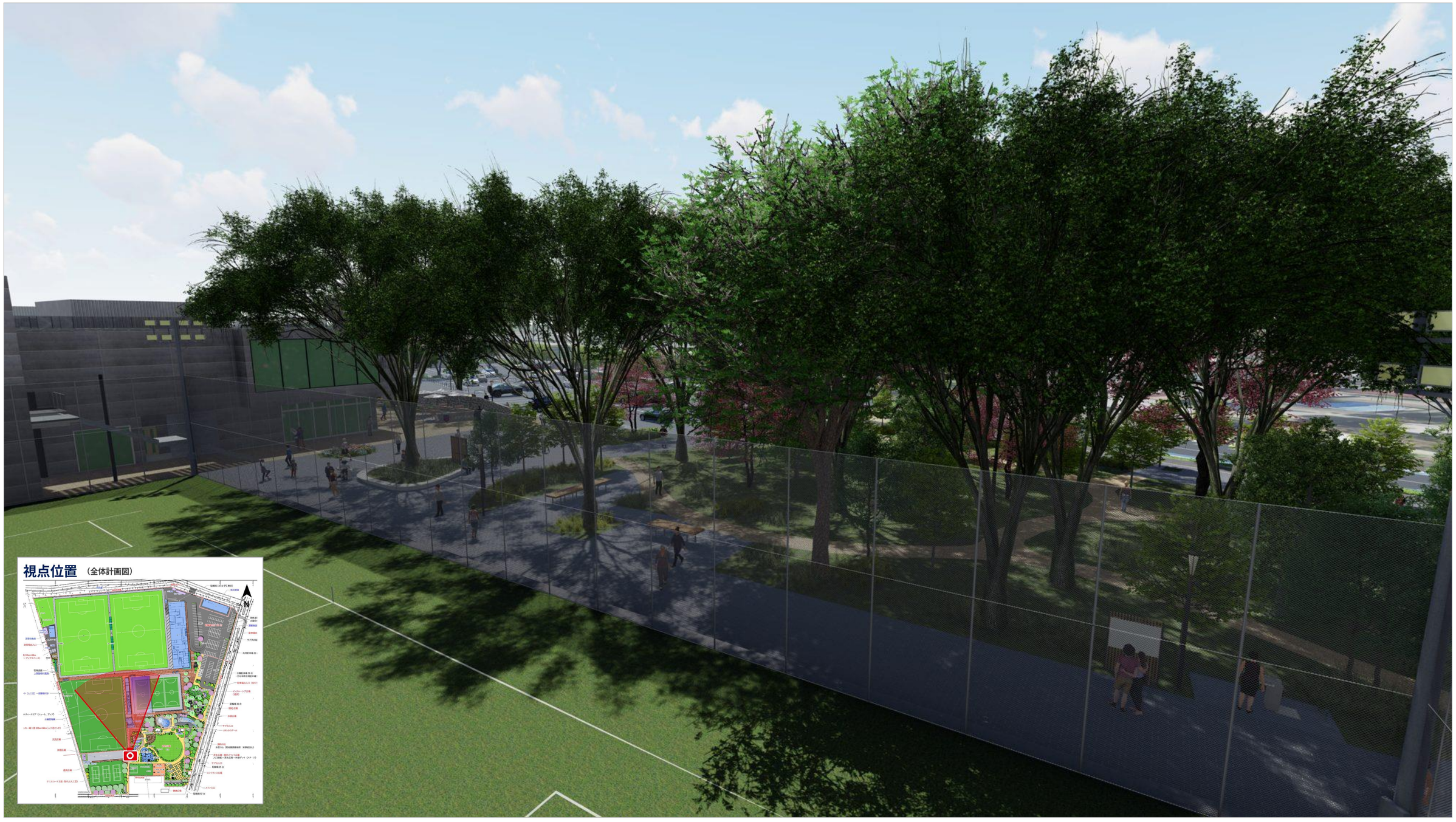
視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園エリア



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園エリア



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：屋根付き通路から



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園管理棟カフェ前広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟



■完成イメージ図：運動施設棟



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟



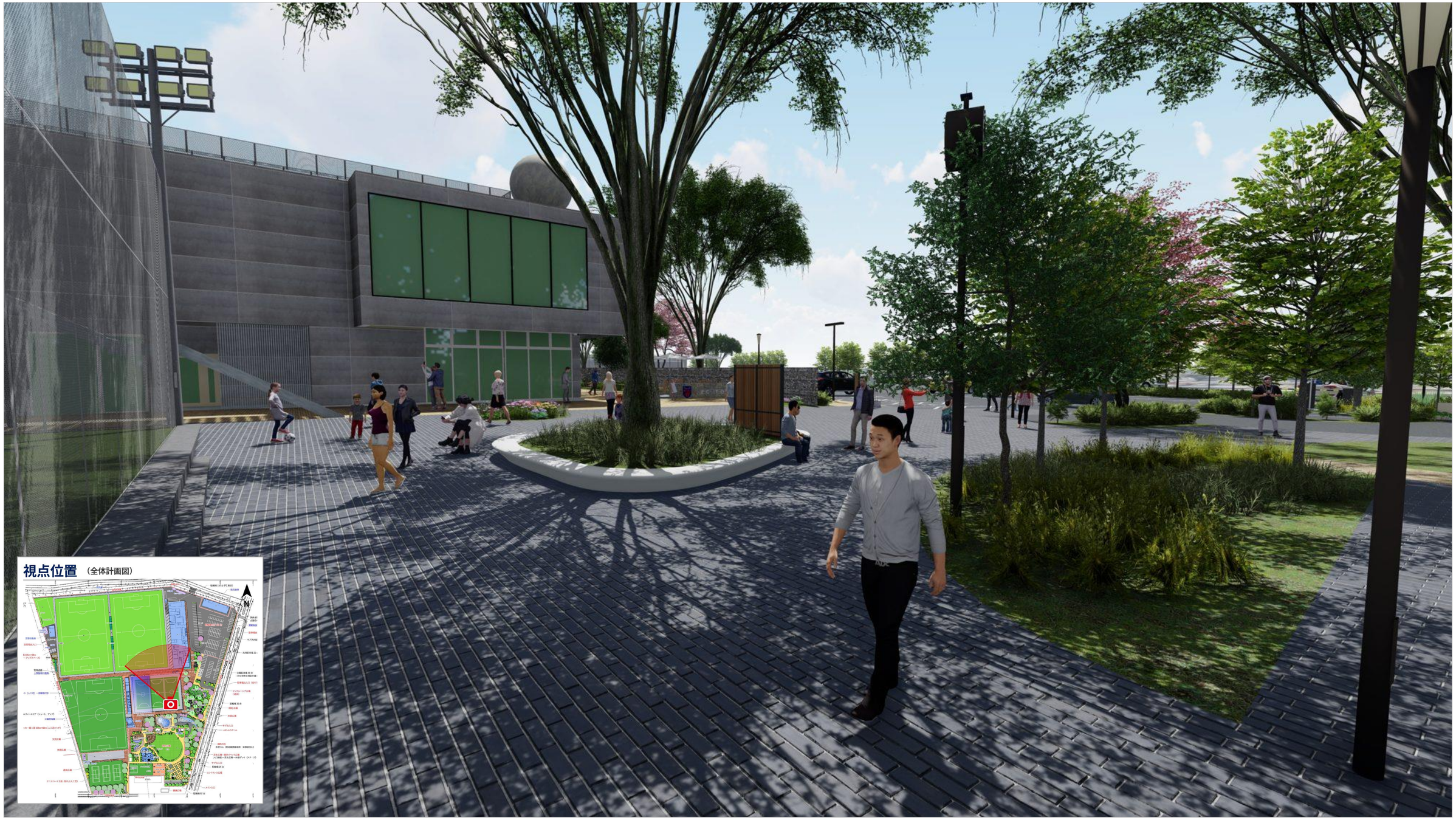
視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟南東側



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟東側広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：天然芝コート横広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：駐車場出入口



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：エントランスから



■完成イメージ図：南側サブ入口



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：東側サブ入口



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：トイレ・倉庫周辺



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：芝生広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：ふわふわドーム



■完成イメージ図：水遊び広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：水遊び広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：自由広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：多目的コート横



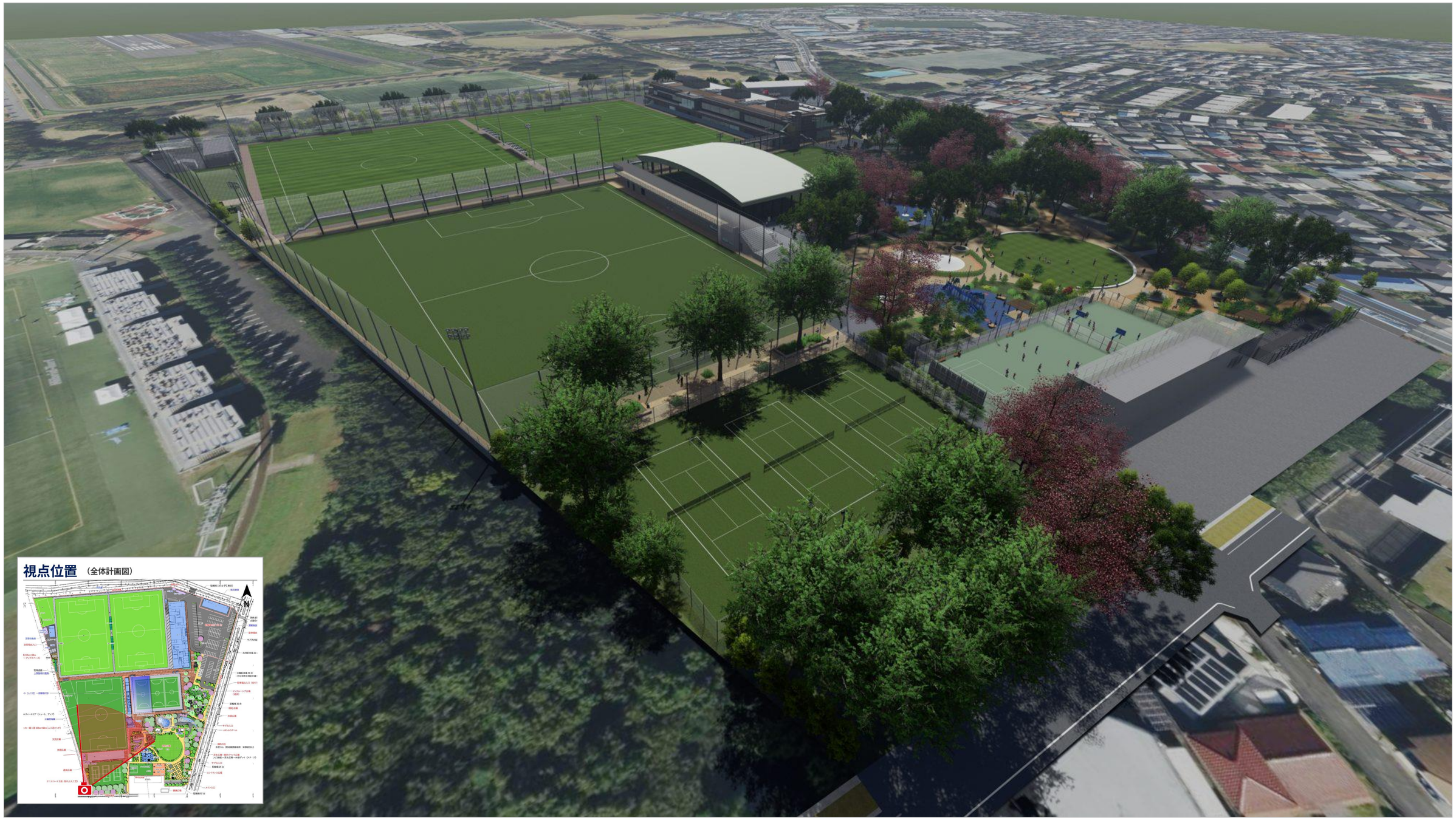
視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：テニスコート横休憩広場



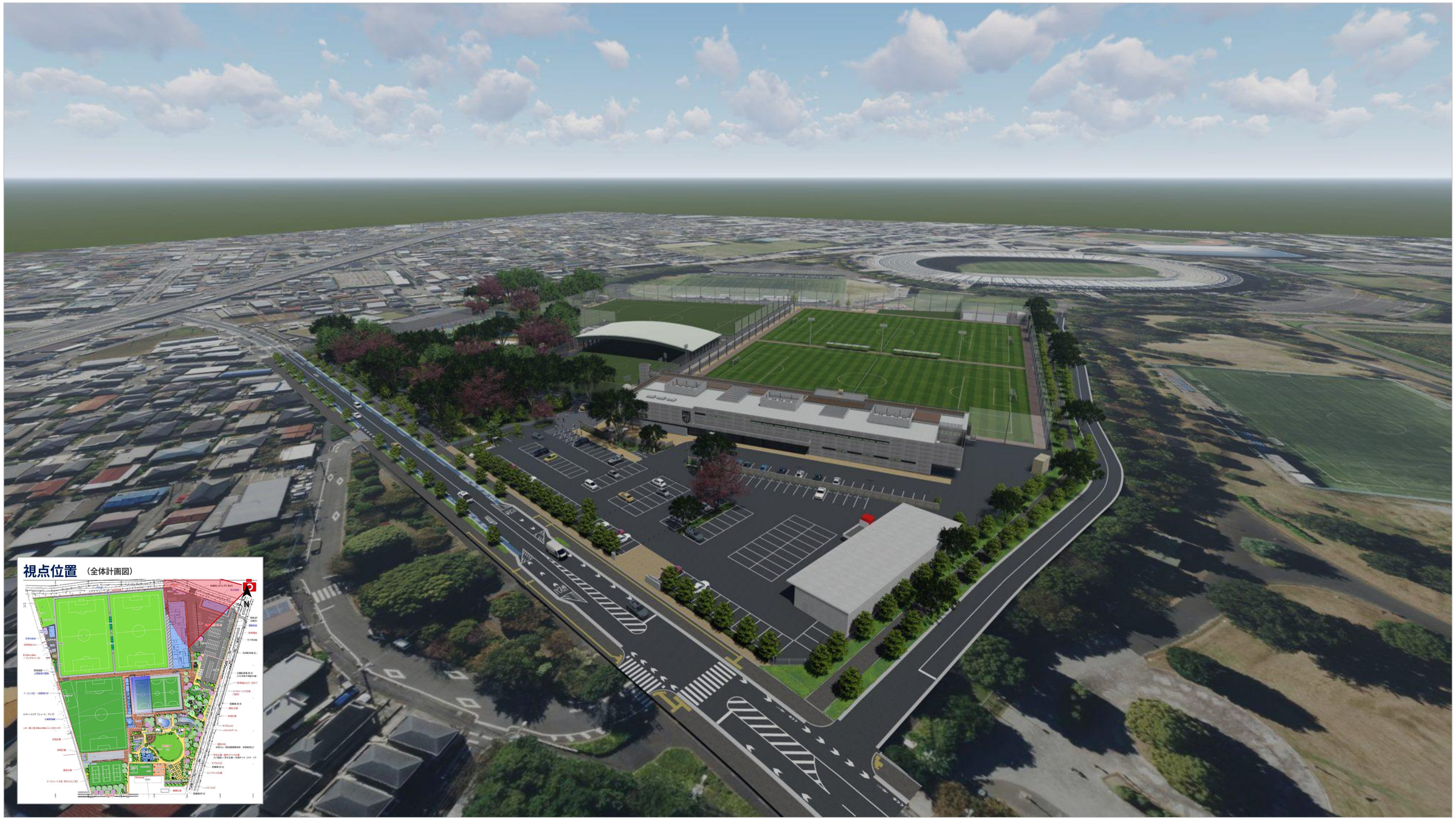
視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：全体鳥瞰



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：全体鳥瞰

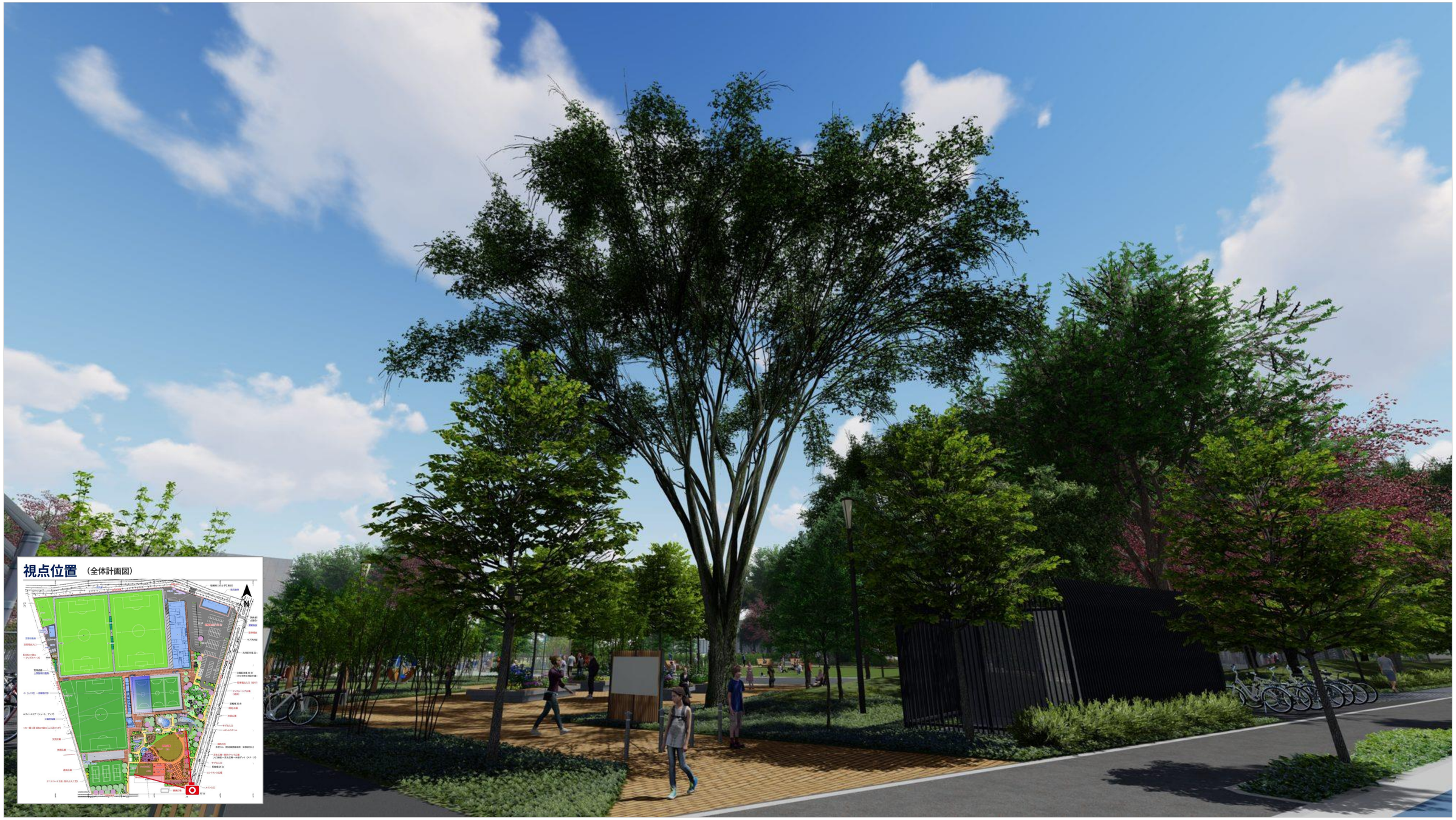


視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：公園管理棟屋上から



■完成イメージ図：メインエントランス入口



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：天文台通り沿い



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：運動施設棟南東側



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：天然芝コート横広場



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：ボールパーク



視点位置 （全体計画図）

■完成イメージ図：芝生広場



完成イメージ動画